

「青少年の意識に関する調査」 結果報告書

令和5年3月

青 森 県

はじめに

近年、青少年を取り巻く環境は、少子化や核家族化の進行、地域力の低下などに加え、情報化社会の進展などにより急速に変化しており、青少年の意識や行動に大きな影響を及ぼしています。

とりわけ、スマートフォンの普及などにより、青少年がインターネットを使用する機会や利用時間はますます増加しており、犯罪の被害者又は加害者となる痛ましい事件が発生しています。また、ネットいじめやネット依存などの問題も深刻化しています。

このような社会の変化に対し、本県の青少年がどのような意識をもっているのかを捉えるため、県では「青少年の意識に関する調査」を隔年で実施し、青少年行政を総合的かつ効果的に進めていくための基礎資料としています。

今年度は、県内の小学校・中学校・高等学校 44 校の御協力をいただき、地域のこと、自分のこと、メディア・コミュニケーションのことなど、青少年の意識と行動について調査を実施し、報告書にとりまとめました。

この報告書が、青少年の育成に携わる皆様に広く御活用され、あおもりの未来を担う人財[※]である青少年が、心豊かに健やかに成長していくための施策や活動の一助となれば幸いです。

最後に、本調査の実施に当たり、御指導いただいた弘前大学教育学部教授の田名場忍氏をはじめ、各学校関係者及び関係者各位に厚くお礼申し上げます。

令和5年3月

青森県環境生活部青少年・男女共同参画課長

松村 浩二

※人財：青森県では「人は青森県にとっての『財（たから）』である」という基本的考えから、「人」「人材」などを「人財」と表しています。

目 次

第1部 調査の概要	1
第2部 調査結果の概要	7
I 単純集計結果	
1 地域のこと	
住んでいる地域への評価	9
住んでいる地域が好きな理由	11
地域の大人へのあいさつ	14
地域の大人からのあいさつ	16
地域活動への参加	18
ボランティア活動への参加	21
2 学校のこと	
学校生活への満足度	23
学校生活が楽しい理由	25
3 家族・家庭のこと	
家族・家庭への評価	27
家族との会話の頻度	29
家族との行事の頻度	31
お手伝いの頻度	32
家族との人生や将来の会話の頻度	33
家族との約束ごと	34
家族や家庭に大切なもの	37
4 自分のこと	
自己への評価	39
きまりやルールへの評価	41
自然への感動	43
芸術への感動	44
自身への思いやり	46
他人への思いやり	48
命について	50
家族や社会への関わりについて	52
小さい子の面倒見について	53
居心地のいい場所	54
悩みごと	56
悩みごとの相談相手	58
相談しない理由	60
5 新型コロナウイルス感染症流行下の心の状態	
コロナ下の心の状態	62
6 メディア・コミュニケーションのこと	
友だちとのコミュニケーション方法	63
携帯電話・スマートフォン等の所有状況	65
インターネットにつながる機器の使用目的	67

SNSの利用目的	69
インターネットの利用時間	71
フィルタリング機能の認知状況	72
フィルタリング機能の利用状況	74
年齢が制限されているサイトへのアクセス状況	75
悪口やいじめにつながる書き込みの閲覧状況	76
悪口やいじめにつながる書き込みの閲覧場所	78
インターネット利用の悪影響	79
インターネットで知り合った人とのメール等のやりとり	80
インターネットで知り合った人と実際に会う	82
インターネットで知り合った人への個人情報送信	84
家庭でのインターネット利用ルール	85
インターネットの危険性の学習	88
7 読書のこと	
読書への評価	91
1日の読書時間	92
1か月の読書量	94
8 世の中のこと	
世の中の出来事についての会話	96
9 就労に関する意識	
将来の就労意識	98
10 社会の価値観の変化に対する意識	
社会の価値観の変化に対する意識	100
II クロス集計結果	108
第3部 青森県の青少年の現状と今後	
— 「青少年の意識に関する調査」(令和4年度)の分析から —	123
弘前大学教育学部教授 田名場 忍 氏	
参考1 調査結果集計表	131
参考2 調査票	165